

科目名	書道			担当教員	寺坂文和		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	10G01_20150	単位区別	履修
学習目標	国語科書写では、文字を正しく整えて書くことを目標としたが、芸術科書道では、書写の能力をさらに高め、書之美を追求していくことを目指す。 書の表現と鑑賞の基礎能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、芸術としての書之美を学ばせ、書を愛好する心情を養う。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> 表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 表現力を高め豊かにするには、すぐれた書を鑑賞し感性を養うことを心がけるようにする。 						
学習内容	1. 書之美を求めて (1)			書之美とは何かを考えさせる	A3:1		
	2. 楷書の学習の基本 (2)			書の基本形を把握する	B2:1		
	3. 厳正な楷書と温雅な楷書 九成宮醜泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書 (2)			古典の臨書を通して、用筆、運筆、点画の形や線質、字形など表現技法を学習する。	B1:1		
	4. 重厚な楷書と軽快な楷書 建中告身帖と雁塔聖教序の鑑賞と臨書 (2)						

	5. 行書の特徴 (1)			創作の手順を理解し作品づくりをする。	B2:1		
	6. 蘭亭序の鑑賞 (1)						
	7. 蘭亭序の臨書 (半紙) (2)						
	8. 蘭亭序の臨書 (画仙紙半切) (4)						

	9. 行書による創作 (2)			「いろは歌」により基本的なものを身につける。	B1:1		
	10. 平仮名の単体 (2)						
	11. 変体仮名 (3)						

	12. 連綿 (2)			連綿の方法や仮名の流動美を理解する。	A1:3		
13. 漢字仮名交じりの書の学習 (2)			漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づける	B2:1			
14. 古名跡を応用しての表現 (2)							
15. 用筆・運筆および用具・用材の工夫 (2)							

評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教材	教科書：今井凌雪著「新編 書道Ⅰ」 教育出版						
備考	特になし						